

FANCT

vol.124

旭川工業高等専門学校 学校だより“ファンクト”
平成28年3月発行



「旭川高専 OG と女子学生とのトークセッション」

Contents

特集 1

卒業・修了おめでとう！ …… 2～7
先生の横顔（番外編） …… 7

特集 2

旭川高専における進路支援 …… 8～9

アイデア対決・全国高等専門学校

ロボットコンテスト …… 10～11
全国高等専門学校
プログラミングコンテスト …… 11

全国高等専門学校

デザインコンペティション …… 12
パテントコンテスト・
デザインパテントコンテスト …… 12
第1学年のクラス紹介 …… 13
第4学年見学旅行 …… 14～15
第53回 高専祭 …… 16
留学生実地見学旅行と留学生交流会 …… 16
女子学生の活躍を支援する取り組み …… 17
ANCTOPICS …… 18～19

卒業・修了おめでとう！

卒業生・修了生のみなさん、卒業・修了おめでとうございます。卒業・修了後の新たな世界においても、本校で学んだ知識や技術を存分に発揮し、大いに活躍していただきたいと願っています。専攻科長と各クラスの担任からはなむけの言葉をいただきました。



学士の学位授与制度が変わり、皆さんは最初のチャレンジャーでした。事の発端は、人一倍研究に励んだ学生が学位試験に不合格になるケースが生じたことです。学位授与を円滑に行うため、研究指導教員が専攻科生の研究活動の取り組み・成果状況をみて合格判定をほぼ下せる「特例適用専攻科制度」が導入されました。

高専で100%の判定ができないのは、「大学評価・学位授与機構」が各学生の「研究計画書」を審査するためです。学位取得をバックアップする教職員もハラハラ・ドキドキ、責任者の小生も緊張の1年でした。しかし、無事に学位申請者全員が学士を取得でき、修了書授与式を迎えられたことを非常に嬉しく思います。

以上、皆さんの足元でも社会の制度改革が起きることを実感して貰えたかな。

専攻科長 富樫 巖

卒業おめでとうございます。これまで皆さんの学校生活から進路に至る様々な面で指導に当たってきた担任として、卒業を心から祝福すると共に、クラスの運営にご協力を戴きました保護者ならびに本校教職員の皆様方に心より感謝の意を申し上げます。

このクラスの特徴は、「協調性が高い」事だと思います。特に、団結力を要する校内体育大会では大いに活躍し、5年生では総合第3位という素晴らしい成績を取めました。また、高専祭では4,5年生でクラスの出店を行い、一丸となって準備に取り組みました。

今後は、23名が就職、17名が進学という形で、新しい世界へと旅立つ事になります。社会情勢は厳しさを増す一方ですが、高専での5年間を乗り切った事に自信を持ち、堂々と社会の荒波に立ち向かって行ってください。

機械システム工学科5年担任 横井 直倫



社会人になり「学校で習ったことは役に立たない」と言う人がいますが、それはまちがいです。我々高専教員は工学技術の基礎を教えました。気をつけたのは、「困ったら頭を使って考えろ。」を教える事でした。電気や情報の知識は広く、就職先分野と異なれば使わないものも出てくるでしょう。しかし難しい電気や情報工学を学んだ結果、脳内の神経線維が複雑に絡み合っ問題解決の能力が増すという効果が生じます。それこそが我々から君たちへの贈り物です。全国高専の中で旭川が劣っている話は聞きません。大学編入組も高専以上に脳を駆使して勉強して下さい。最後に5年間支えてくれた保護者の方への感謝を忘れずに。

電気情報工学科5年担任 有馬 達也

システム制御情報工学科5年の学生諸君、そして保護者の皆様に卒業のお祝いを申し上げます。皆さんは学科名に「システム」がついた新学科の第1期生となりました。3年生から学科別クラスになり、馴染むまで少し時間がかかりましたが、振り返ってみると体育大会などの行事でも上位に食い込む「制御」らしからぬクラスでした。担任としては、学科長が皆さんに話した「他人と担任には迷惑をかけない」という言葉を良く実践してくれたクラスだったと思っています。

これから皆さんはそれぞれの道で社会に出て行く事になります。これまで以上に自分自身の中に「正しさ（判断基準）の柱」をしっかり持ってください。皆さんが高専時代に獲得した強みを活かして、それぞれの領域で活躍してくれることを願っています。

システム制御情報工学科5年担任 中村 基訓



物質化学工学科5年の学生諸君、卒業おめでとうございます。

まだ幼さの残る顔で入学して来た5年前と比べ、たくましく精悍な顔つきとなった君たちを見ると人生の中でも重要な変換期を共に過ごしてきたのだと思わされます。卒業後は進学・就職先でまた人生の変換期がやってくることでしょう。非常に困難なことが待ち受けているかもしれません。でも安心してください。この高専での5年間を過ごしてきた君たちなら大丈夫、努力の仕方はわかっているはずですよ。この経験を十分に生かして各自が持っている力を発揮し、より良い方向へ進んで行けるであろうと信じています。何事にも恐れず、後悔しないような人生の選択をしていってください。

物質化学工学科5年担任 梅田 哲

卒業生・修了生に質問!

卒業生・修了生のみなさんにとって高専で過ごした日々はどのようなものだったのでしょうか? 高専生活の思い出や卒業・修了後に向けた決意などについて聞かせてもらいました。

卒業生・修了生に聞きました!

- Q1 どんなクラス(専攻科においては科)でしたか?
- Q2 お世話になった先生方にメッセージを!
- Q3 新しい生活に向けて決意表明を!



専攻科

- Q1 専攻科はグループワークが多いため、実験等では各々の出身学科の知識を生かし、お互いに助け合いながら進めることが多かったです。研究では全国各地に赴いて学会発表を行うなど、様々な経験を積むことができました。
- Q2 高専に入学し、個性の強い先生方に驚いたのも7年前のこと。皆さんからは授業や実習・研究、部活などで多くのことを学ばせていただきました。今の私がいるのは先生方のおかげといっても過言ではありません。ありがとうございました。
- Q3 私は専攻科を卒業後、本校の技術職員となります。学生時代に好きだったことを仕事にでき、とても嬉しいです。今後10年、20年と向上心を持って仕事に取り組み、今度は自分が学生の皆さんの夢を見つける手伝いができればいいなと思っています!

回答: 菅 結実花



機械システム工学科

- Q1** みんな機械科らしく元気で、互いに信頼し合うことのできる仲の良いクラスでした。賑やかな時もあれば、高専祭や体育大会ではみんなで協力し合って、真剣に取り組むという一面もあり、最高のクラスでした！
- Q2** 横井先生には、色々ご迷惑をお掛けすることもありましたが、私たちの進学・就職活動を見守っていただきありがとうございました！
また、他の機械科および一般科目の先生方にも熱心にご指導いただきありがとうございました！
- Q3** 卒業してみんなに会えなくなるのはとてもさみしいです。でも、みんなそれぞれの新天地で頑張っていくと思うので、次に会えるのを楽しみにして自分も高専での経験を社会に生かして頑張りたいです。 回答：植田 頌平



電気情報工学科

- Q1** 入学時と比べるとのべ半数近くメンバーが入れ替わりました。おそらくそれが原因で最後までまとまりのない自由なクラスでした。ですが、最後の体育大会で総合優勝したのはとても嬉しかったです。控えめに言って最高のクラスです。
- Q2** 有馬先生には5年間お世話になりっぱなしでした。最後までご迷惑をおかけし続けたことは今となっては良い笑い話です。また、土橋先生は留年寸前の学生を幾度となく救ってくださり、まさに神様のような存在です。
- Q3** 私は4月から就職で北海道にサヨナラバイバイします。新しい土地は不安と期待でいっぱいですが、持ち前の明るさと社交性で世の中をうまく渡り歩いていきます。どうかご声援よろしくおねがいします。 回答：佐々木 恒平



システム制御情報工学科

- Q1** 普段の学校生活では静かですが、体育祭や学校祭などのイベントでは一致団結して楽しく頑張るクラスでした!! 体育祭での表彰や、学校祭での面白ビデオやカラオケコンテストなど思い出がたくさんあります。5S 最高!
- Q2** 担任の中村先生には就職活動や普段の生活のことなど、本当にお世話になりました!! 卒業研究では自分の卒研担当である堀川先生をはじめ本当にたくさんの人にお世話になりました。高専の五年間を支えてくれた先生方にとっても感謝しています。ありがとうございました。
- Q3** 卒業後は就職で忙しくなり、学生の頃とは環境が違い戸惑うこともあるとは思いますが、新しい出会いや発見など楽しみなことも多くあります。高専での経験や、学んだことを生かして自分らしさを忘れず頑張っていきたいです。

回答：齋藤 和希



物質化学工学科

- Q1** 良くも悪くも、もの静かなクラスでした。そのため、授業中に先生方から「ここは葬式か?」といわれたものです。しかし、化学科教員とのソフトボール大会や高専祭ではクラスが団結し盛り上がりました。その場と状況を考えて慎重に行動する本当に良いクラスだったと思います。
- Q2** 担任の梅田先生をはじめ、お世話になった教員並びに技術職員の皆様には、勉学や研究の面だけでなく様々な事を学ばせてもらいました。この5年間で得たものは、自分にとって大きな財産になったと思います。本当にありがとうございました。
- Q3** この5年間で得た経験を生かして、今後も研究活動や勉学など様々な事に自主的に励んでいきたいと思っています。今後とも、教員の皆様にはお世話になることが多々あると思いますが御指導の程よろしく願いいたします。

回答：南田 悠



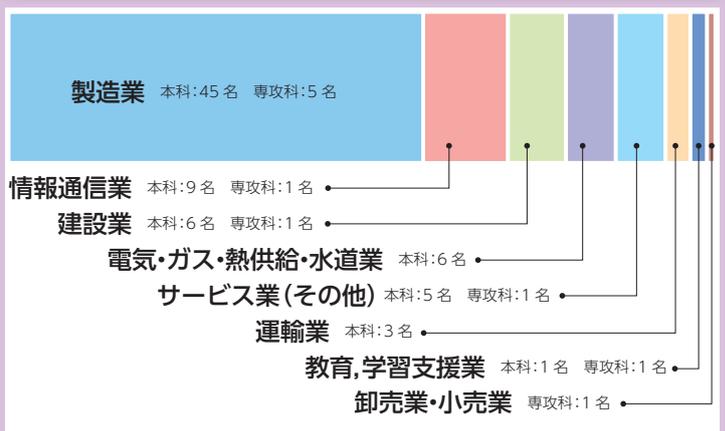
就職 本科75名 専攻科10名

本科・専攻科就職先

企業等名	本科			専攻科	
	機械	電気制御	化学	生産	応用
DMG 森精機(株)		1			
JNC 石油化学工業(株)			1		
(株)NTT ファシリティーズ				1	
(株)NHK アイテック		2			
(株)アークレイ		1			
(株)アラタ工業			1		
アマゾンジャパン(株)				1	
旭化成ケミカルズ(株)				1	
旭川工業高等専門学校 技術職員		1	1		
出光興産(株)			1	1	
ウエルネット(株)		2			
エースラゲージ(株)北海道赤平工場	1				
(株)エヌ・ティ・ティ エムイー		2			
オムロンフィールドエンジニアリング北海道(株)		2			
(株)コンピュータビジネス			1		
コニカミノルタビジネスソリューションズ(株)			1		
サントリービール(株)	1				
シンセメック(株)	1				
(株)ジェイベック		1			
ジャパン マリンユナイテッド(株)	1				
ジャパンファインプロダクツ(株)			1		
ジョンソンコントロールズ(株)			1		
水ing(株)		1			
スパイラルセンス(株)			1		
セイコーエプソン(株)	1				
大旺鋼球製造(株)北海道工場	3				
大陽日酸(株)			1		
ダイキン工業(株)			1		
(株)テクモ			1		
デジタルテクノロジー(株)		1			
東レ(株)				1	
東洋インキ SC ホールディングス(株)				1	
東海旅客鉄道(株)				1	
東芝エレベータ(株)	1	1			
東芝メディカルシステムズ(株)		2			
(株)巴商会			1	1	
(株)日本除雪機製作所	1				
二チロ畜産(株)	1				
日本アイビーエム・ソリューション・サービス(株)				1	
日本オーチス・エレベータ(株)				1	
日本トーカンパッケージ(株)			1		
日本原燃(株)				1	
野里電気工業(株)		1			
ハイウェイ・トール・システム(株)		1			
パナソニックデバイス帯広(株)	1				
パナソニック機軸オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社			1		
日立建機日本(株)	1				

企業等名	本科			専攻科		
	機械	電気制御	化学	生産	応用	
(株)日立ビルシステム	1					
(株)フルヤ金属				1		
ファナック(株)			1			
富士重工業(株)	1	1				
フジテック(株)			1			
富士古河 E & C (株)		1		1		
藤森工業(株)		1				
(株)ホンダテクノフォート					2	
(株)北海道モリタ	1					
北海道コカ・コーラプロダクツ(株)				1		
北海道電力(株)		3				
北海道富士電機(株)		1				
北新金属工業(株)				1		
北海道エア・ウォーターエンジニアリング(株)			1			
北海道ガス(株)	1					
北海道住電精密(株)	1					
北海道旅客鉄道(株)	2					
マルハニチロ(株)	1					
三菱電気ビルテクノサービス(株)	2					
雪印メグミルク(株)				1		
合計	23	23	17	12	9	1

産業別就職先



地域別就職先



進学 本科61名 専攻科6名

本科進学先

進学先	機械	電気	制御	化学
本校専攻科	4	1	3	9
北海道大学		1	1	2
室蘭工業大学		1	1	
岩手大学		1		
宇都宮大学				1
金沢大学			1	
筑波大学		1		
東京農工大学	1			1
長岡技術科学大学	2	3	2	6
豊橋技術科学大学	5	3	6	
岐阜大学	1			
九州工業大学			1	
日本工学院北海道専門学校	1			
北海道芸術デザイン専門学校				1
専門学校 札幌ビジュアルアーツ 写真学科	1			
計	15	11	15	20

専攻科進学先

進学先	生産	応用
北海道大学大学院	1	3
北陸先端科学技術大学院大学		1
長岡技術科学大学大学院	1	
計	2	4

* 科名の略称について…

- 本科／機械 (機械システム工学科)
- 電気 (電気情報工学科)
- 制御 (システム制御情報工学科)
- 化学 (物質化学工学科)
- 専攻科／生産 (生産システム工学専攻)
- 応用 (応用化学専攻)

先生の横顔

番外編

高専での30年を振り返って

私は、平成28年3月を以て定年を迎えます。30歳代半ばの昭和61年に採用され、30年間勤務しました。大学の時の専攻は日本古代史でしたが、旭川に来てからは、『新旭川市史』の編纂に関わったこともあり、主に、北海道地域史と北海道古地図の研究に取り組んできました。

赴任の翌年に機械科Bクラス(当時、機械科はA・B2クラスでした)の担任となり、以後、すべての学科と混合学級2クラスの計6クラスの担任を経験しました。担任業務はひやひやしたり、どきどきしたりと苦労もありましたが、楽しい思い出もいっぱいあり、学級日誌は全部とっていますので、暇な時に読み返したいと思っています。このごろは少なくなりましたが、結婚式に呼ばれるとそこでわかクラス会となり、大変楽しいひとときが過ごせました。また、卒業生が還暦のお祝いをしてくれた時はとても感激しました。いい学生たちに恵まれたことに感謝したいと思っています。

また、赴任当初、先生や職員の方たちが昼休みにテニスに興じるのが恒例となっていて、早速仲間に入れてもらい、そこでも楽しく過ごせました。個性的で、人間的に魅力のある先生が多く、学生との接し方や高専教員としてのあり方について、思いやりや、物事に熱心に取り組むことの大切さなど、いろいろ教えていただきました。私も若い先生方にいろいろ伝えてこなければいけなかったのですが、それができず大変申し訳なく思っています。

最近、安全保障関連法案の審議に見られるように、グローバル化や国家間の問題が優先されて、私たちの日々の生活が置き去りにされているような感じがしています。今こそ、生活者の視点が重要だと思います。学生の皆さんが目指す技術者の道も、生活者に寄り添うものであることを願っています。私も、歴史研究において、地域史研究の重要性を強く感じています。今後とも、地域史に関連する仕事に関わっていけたらと考えています。

最後になりますが、これまでお世話になった皆様に感謝すると共に、皆様の一層のご活躍を祈念して、筆を置かせていただきます。



平野 友彦

一般人文科

退任教員からひとこと

旭川高専における進路支援

旭川高専では毎年、進路に関する講演会などを開催し、卒業後の進路決定に資する様々な進路支援事業を実施しています。今年度行った主な取り組みを紹介します。

○低学年に対する進路支援

進路指導を行った5年担任などが、就職・編入学状況の説明など進路に関するガイダンスを行っています。また、進路が決まった5年生から就職・進学体験について講話してもらう機会などを設けています。これらを通して、低学年の進路に対する動機付けを図っています。

○3年生に対する進路支援

高専OB技術者による進路支援のための講演会を開催しています。今年度は、5名の講師による企業での活動や業務内容についての講演を行い、様々なメッセージとアドバイスをいただきました。

機械システム工学科	11月12日(木)	株式会社日本製鋼所室蘭製作所 風力製品部設計グループ 中野 秀俊 氏
電気情報工学科	2月 4日(木)	GEヘルスケア・ジャパン株式会社 札幌支店 徳光 圭介 氏
システム制御情報工学科	11月19日(木)	室蘭工業大学ものづくり基盤センター センター長 清水 一道 氏
	1月19日(火)	株式会社アットマークテクノ 代表取締役 實吉 智裕 氏
物質化学工学科	1月28日(木)	東ソー株式会社高分子材料研究所 フィルム・ラミグループ 川戸 大輔 氏

川戸氏による講演



徳光氏による講演



○4年生に対する進路支援

来年度の「就職」「進学」に備えて、4年生に対しては集中的に支援事業を展開しています。『進路に関する講演』では、コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社 管理本部人事部 西川 博隆 氏をお招きし、就職活動の心構えと準備、企業が求める人材についてご講演していただきました。また、『旭川高専学内セミナー』では、道内外52社の企業にご参加いただき、企業紹介をしていただきました。学生にとって、企業の方から直接お話を伺うまたとない機会となり、充実した企業研究を行うことができました。さらに、3月13日(日)には、メディア総研株式会社の主催で『高専生のための合同会社説明会 北海道地区』が札幌コンベンションセンターで開催されました。

6月25日(木)	進路に関する講演	12月10日(木)	就職適性検査結果説明
11月 5日(木)	就職適性検査	12月19日(土)	旭川高専学内セミナー
11月12日(木)	就職実践模試	1月28日(木)	就職模擬面接

就職実践模試の様子



就職適性検査説明会の様子



模擬面接に臨む各学科の代表学生



旭川高専学内セミナーの様子



○進学に関する進路支援

本校卒業生・修了生の主な進学先を中心に様々な大学の進学説明会を開催しました。大学の概要や試験の詳細に関する説明と共に、各大学の教員に直接質問できる個別説明の時間が設けられ、志望大学決断の一助となりました。

5月 7日(木)	室蘭工業大学編入学説明会
5月28日(木)	北海道大学工学部・北見工業大学合同編入学説明会
10月15日(木)	技科大等合同説明会 (豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、九州工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学)

北海道大学工学部・北見工業大学 合同編入学説明会における個別説明の様子



技科大等合同説明会の様子



○その他

進路選択に役立つ特別講演会等を学科やクラスごとに開催しております。例えば、宇宙航空研究開発機構(JAXA)や、株式会社豊田自動織機、北海道大学、北見工業大学から講師をお招きし、企業での取り組みや大学での研究について講演していただきました。

旭川高専では、「ロボコン」をはじめ「プロコン」や「デザコン」と呼ばれる全国の高専が競うコンテスト・コンペティション、そして全国の高校生、高専生及び大学生が自ら考え出した発明・デザイン（意匠）を応募する「パテコン」に積極的に参加し、優秀な成績を収めています。参加した学生や顧問教員にお話を伺いました。

「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」

4年連続 地区大会優勝！

「ロボコン=友情」

機械システム工学科 5年 小笠原 広大

僕がロボットラボラトリーのメンバーとして活動した期間は他の人より1年間短い4年間でした。僕が入部したのは2年生の時。その時には、僕よりも技術力があって1年間多くの経験をしていた同級生の森田がいました。今でこそ言えることですが、ロボットラボラトリーの部員なら誰でも使うことができる「旋盤」に僕は恐怖心を抱いていました。この「旋盤」という機械は加工する棒材を毎分540～1200回転させ加工するものです。その回転軸には簡単に手を伸ばすことができ、加工中に回転軸に手が巻き込まれてしまうと大きな事故につながってしまいます。自分の手の届く範囲に事故があると思うと恐ろしく、苦手でしたが、2年生のときに旋盤を使っていた森田に負けたくない一心で旋盤作業ができるようになりました。今考えてみれば2年生の僕は高専ロボコンをするために部活をするのではなく、森田を追い越したくて部活に打ち込んでいたのだと思います。

この僕の考え方を教えてくれたのは2年上の先輩方でした。先輩方の高専ロボコンで優勝するために努力を惜しまず、すべてをかけて活動している姿がかっこよく、憧れました。そんな先輩方に少しでも優勝に近づいてもらいたくて、僕も自分ができる最大限のことをしましたが、自分の実力の無さを痛感することになりました。

そんな先輩方でも地区大会で敗れ、全国大会に進めませんでした。僕は先輩たちが進めなかったその先に進みたいと部活をすることにしました。その時からずっと、森田と同じ目標を抱いたのだと思います。

ロボットラボラトリ最後の年である今年、僕は夢にまで見た全国大会の舞台に森田と一緒に立ちました。僕はピットとして、森田は選手として参加し、お互いの全力を尽くすことができました。結果は優勝には届かずベスト8で終わってしまい、少し悔しい気持ちはありますが、ロボットラボラトリに参加していた4年間の高専生活の中身は誰にも負けないものになったと思います。



「5年間のロボコンを振り返って」

機械システム工学科 5年 森田 慧

僕は中学生の頃、テレビで見た「高専ロボコン」に憧れてこの旭川高専に入学しました。僕は「高専=ロボコン」というイメージが強かったので、おそらくたくさんの仲間が入部してみんなで一緒にロボットを完成させるものだと思っていました。ところが実際には入部した人があまりいなくて毎日ひとりで黙々と先輩に与えられた作業をしている日々でした。それでも地区大会を会場で見せてもらってロボコンをやっていると感動しました。

僕が2年生のとき、なぜこのタイミングで入部してきたのか謎だった小笠原君が仲間入りし、さらに先輩が地区大会で圧勝し、全国ベスト4の結果を残しました。それを見て「優勝したい!」という気持ちが強くなりロボコンに対する考え方が一気に変わりました。

3年生の時、小笠原君と共に初めてチームに配属されて、お世話になった2つ上の先輩とチームを組ませてもらいロボットの設計も行いました。初めて大会に参加するロボットを作りましたが、決して簡単なことではなく、先輩の力を借りながらなんとか完成させるのがやっとでした。初めてチームに配属され、親しくしてくれた先輩たちと組んでいたんで優勝したいという気持ちではいましたが、地区大会で優勝できずとても悔しい思いをしました。その中でも、1年間を通して先輩たちのロボコンに懸ける思いや情熱を感じることができ、先輩の分も絶対に優勝するんだと思いました。

4年生は自分たちがメインのBチームで、しかも念願の操縦者として大会に参加することができました。小笠原君と寮で毎晩アイデアを出し、設計を進めてロボットを完成させました。完成したロボットが「蒸籠(セイロン)」です。初めて自分たちで作上げたロボットだったので、かわいくしょうがなかったです(笑)結果は僅差で先輩のAチームに負けてしまい地区準優勝でした。

ちなみにこの1年間を一言で表すと「セイロンドライブ」です。小笠原君のネーミングセンスには脱帽です(笑)

5年生になった今年はAチームで2年連続操縦者でした。ずっと人数が少ないまま5年生まで来てしまいましたが、なんとかロボットを完成させ、苦しみながらも地区大会で優勝し、全国大会の舞台に立つことができました。そして国技館でロボットを操縦することができ、中学生の頃の夢を叶えることができました。全国ベスト8で終わってしまったので結果は残念でしたが、最後の試合まで楽しむことができました。

旭川高専としては4年連続地区大会優勝、4年連続全国ベスト8以内という連続記録があります。この記録を伸ばしていくとともに、後輩たちには僕たちが成し遂げられなかった全国優勝を目指してほしいです。期待しています!





「ロボットラボラトリ部」

ロボットラボラトリ顧問 阿部 晶

本校のロボットラボラトリ部はアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテストで優勝を成し遂げることを主な目的として活動しています。高専ロボコンはスポットライトを浴びテレビカメラが回る中での競技であり、華やかなイメージを持っておられると思います。しかしながら、大会までの半年間程の期間でロボットを作り上げていく地道な作業が大半を占めます。このロボットの製作作業は、各チーム高学年の4、5人程でロボットの主要パーツを設計し、低学年が部品を作り、1台のロボットが製作される手順となっています。テレビではチーム3名の選手が映しだされますが、ロボットには部員全員の魂が込められています。このことから、ロボットを操縦する学生はプレッシャーを受け、大会当日に食事が喉を通らなくなることもあります(私はこの光景を何度も見てきました)。また、ロボットを開発する過程で、部員同士の意見が分かれ、ぶつかり合うこともよくあります。ロボットを開発・製作する上で技術力が第一だと思われがちですが、チームメンバー間の意思疎通が成立しなければ良いロボットは生まれません。昨年の地区大会では、この意思疎通が明暗を分けたのではないかと考えております。

さて、高専ロボコン北海道地区大会は昨年の10月に苫小牧高専で開催されました。昨年度まで3年連続地区大会優勝・準優勝と、1位・2位を本校で独占しており、今年度の部員には相当プレッシャーがかかっていたと思います。結果はテレビ・新聞等でご存知かもしれませんが、3・4年生混合のBチームは1回戦で敗退したものの、4・5年生混合のAチームは4年連続の地区優勝をもたらしてくれました。これで4年連続全国大会に出場することが決まりました。

昨年11月の両国国技館で開催された全国大会には、選手・ピットクルーの計8名(5年生2名、4年生3名、3年生3名)で挑みました。結果としては、1回戦、2回戦と順調に勝ち上がりましたが、準々決勝で明石高専と対戦し敗れました。昨年度は全国大会準優勝を成し遂げましたが、今年度はベスト8に留まってしまいました。しかしながら、部員総力を挙げてロボットを全国大会仕様を作り上げ、ロボットのパフォーマンスを充分に発揮できたと思います。なお、この全国大会終了と同時に5年生は引退となります。大会に出場した5年生の小笠原君と森田君は写真のように肩を組み一緒に両国国技館の敷地を跨いでロボコンに情熱を燃やした青春を完結しました。

最後に、本校教職員、選手親族、同窓会ならびにロボコンOBなどの多くの方々からのご支援、ご声援に対しまして、この場を借りてお礼と感謝を申し上げます。



「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」

特別賞を受賞!

機械システム工学科3年 新田 陸

10月の11日、12日に長野県長野市で第26回プログラミングコンテストが開催され、今年は私と5年生の先輩の二人の学生が競技部門に参加しました。競技部門は与えられた問題をコンピューターを用いて解き順位を決める部門です。ルールは毎年変わり、今年はある敷地内に与えられた形のパズルピースを可能な限り隙間なく埋め、その敷き詰め割合と回答までの速度で競い合うものでした。去年、一昨年とカメラを使ったものがあったのですが、今回は処理を全てPCの中で完結させるので、本戦の試合は少々退屈なものだったかもしれません。本戦の1日目は予行演習と1回戦が行われました。初戦は比較的優しい問題ばかりなので特に大きな問題もなく1回戦を勝ち抜きました。二日目の準決勝もなんとか勝ち抜き、決勝戦では5位という成績を残し特別賞を受賞しました。その後、高専OBも含めたエキシビジョンマッチが開催されましたが、問題が複雑であったため時間内に良い解を導き出せずにあと少し届かずOBに負けてしまいました。今回5位という結果を残し特別賞を受賞するまでになりましたが、来年度はさらなる高みを目指して日々勉強に励んで行きたいと思います。



「全国高等専門学校デザインコンペティション」

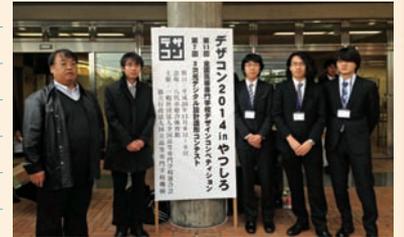
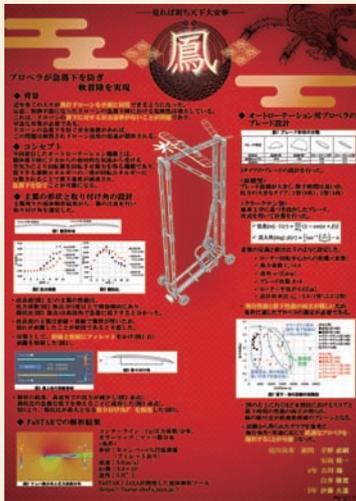
AMデザイン部門（秋大会）に2年連続入賞！

CADコン指導教員 宇野 直嗣

全国高等専門学校デザインコンペティションは通称「デザコン」と呼ばれ、幾つかの部門に分かれて行われています。その部門の一つに、H20年度より開催され通称「CADコン」と呼ばれていた「3次元デジタル設計造形コンテスト」が、今年度より「AMデザイン部門（秋大会）」となりました。

CADコンは、与えられた課題に応じ、三次元CADにより競技に用いる作品を理論に基づきコンピュータ上で立体的に形作り、コンピュータ上のシミュレーション（CAE）により作品の性能を評価し、三次元プリンタにより実体化した作品で競技を行うコンテストです。CADコンが他のモノづくりのコンテストと大きく違う点は、(1) 企業における製品開発と同じく、理論、シミュレーションおよび実験の結果に基づき作品作りを行う点、(2) 競技の一部として作品についてプレゼンテーションを行う点、(3) 2年連続で同じ課題で競うため、2年目は作品の完成度と性能を1年目よりも上げなければいけない点の3つにあります。

本校は、H23年度より機械システム工学科3年生2名と4年生2名の合計4名のチーム編成でCADコンに出場していますが、昨年度と今年度の課題「フライングプレーン」において、他のチーム編成が5年生主体である中、2年連続で審査員特別賞を受賞いたしました。同じ課題において2年連続で受賞したのは本校チームのみであり、審査員から「特に、推したい作品」として紹介いただいたことから本校チームの実力と作品の実用性が高く評価されたと思います。



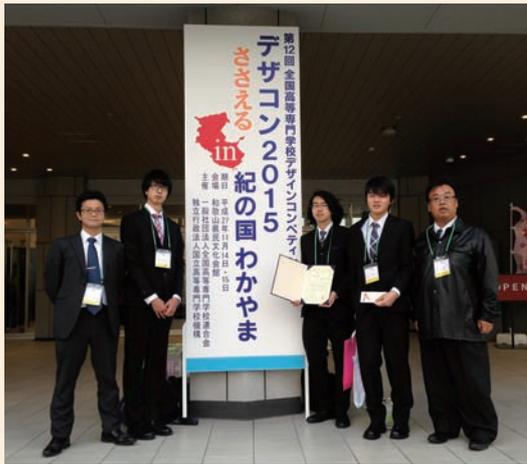
機械システム工学科4年 古川 瑞

私たちは、昨年度に続き、和歌山で開催された第12回デザコンAMデザイン部門（秋大会）に参加しました。その結果、総合4位に入賞し、審査員特別賞を受賞しました。この部門は、三次元CADを駆使して設計を行い、三次元プリンタで造形をして課題を達成するというものです。

今回の課題は前回大会と同様に、プレーンと台車の製作でした。プレーンを搭載した台車が滑り台を滑走し、プレーンは離陸ポイントで台車から切り離され、下から送風機の風力によってプレーンを飛行させ、その滞空時間と飛行距離を競うという内容です。またプレーンの性能を競うだけでなく、独創性や新規挑戦、社会問題解決の構想をプレーン開発に組み入れる必要があるなど、高いレベルの設計開発技術が問われるものでした。

私たちは、プレーンの急降下を防ぎ、軟着陸することを社会問題解決のコンセプトとし、飛行機型の機体上部に取り付けたプロペラによるオートローテーション機構を採用したプレーンを開発しました。しかし、空力性能と軟着陸の性能は二律背反であり、二つの性能を両立させることはとても難しいものでした。これを解決するために様々なパラメータを変えて実験を繰り返し、最適化を行いました。

審査員からも「大変興味深い実験結果である」とお褒めの言葉を頂きました。そのような結果が出たのは実験を諦めずに何度も繰り返すことで得た成果であったと思います。



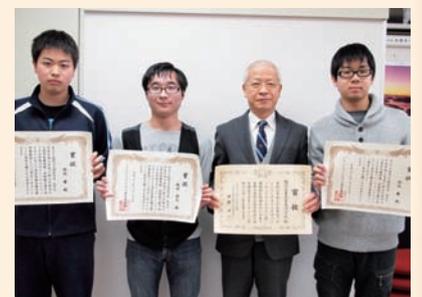
「パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト」

文部科学省 科学技術・学術政策局長賞！

発明研究会顧問 谷口 牧子

平成28年1月25日（月）に東京都千代田区霞が関イノホールで開催された、文部科学省、特許庁、日本弁理士会、独立行政法人工業所有権情報・研修館の4機関主催による、平成27年度のパテントコンテスト・デザインパテントコンテストの表彰式において、発明研究会に所属する、5M西内 廉さんと2M堀田 理久さんが、2人で3件の入賞を果たしました。（西内さんがパテント部門1件とデザインパテント部門1件の計2件、堀田さんがデザインパテント部門1件）また、併せて、同コンテストにおいて、旭川高専としては2度目となる特別賞である「文部科学省 科学技術・学術政策局長賞」を受賞しました。今回の入賞で、本校の学生としては、平成21年度から7連続の入賞となり、連続入賞の記録を更新しました。特に、西内さんのパテントコンテストに入賞したアイデアは、新カリキュラムで5年生全員が受講した必修科目「知的財産権論」の授業の中で考えついたものです。

今後2人は、特許庁や日本弁理士会等主催者側の支援を受けて、特許出願や意匠出願を行います。特許出願については、諸費用と出願料、そして3年間の登録料について主催者側から経済的な支援を受けることができます（意匠出願については1年間）ので、日本のモノづくりを支えるエンジニアを目指す高専生にとっては、新しいアイデアを権利化するチャンスをつかめる理想的なコンテストだといえるでしょう。次年度も、一人でも多くの学生たちに挑戦してもらいたいコンテストです。



機械システム工学科

第1学年のクラス紹介

電気情報工学科

担任 富永 徳雄

どの分野でも、専門的なスキルを身につけるのは生易しいことではなく、特に自主的に学習することが必要になります。1Mにはまだ、学習姿勢が受け身である者や、大人としての意識が不十分な者もいます。いま変えないと、あとで苦労することになります。皆さん元気なので、さらに精神的に成長すれば、もっといいクラスになります。

代表 神野 武

1Mはにぎやかで元気があり、活発なクラスであると思います。しかしその反面、授業中などは騒がしくなったり、寝ていたりと不真面目な部分があります。それでも、合宿研修や体育祭のラリーといった行事では好成績を残したりするなど、やる時はしっかりできる面もあると思います。



担任 倉持 しのぶ

このクラスを担当してすでに9か月。ふだん褒めることはほとんどありませんが、勉強が苦手でも、成績が思うように上がらなくても、くじけず毎日頑張っている(?)学生たちは、入学当初に比べて確実に成長していると思います。お互い向上心を忘れずに、最後までしっかり過ごしましょう。

代表 丹友香

1年電気情報工学科は男子36人、女子7人の、よければ元気で明るい、悪く言えば騒々しいクラスです。個人それぞれ得意分野があり、男女間で勉強を教えあうくらいに仲は良好です。昼休みなどは教室から楽しそうな声が聞こえてきます。こんな騒がしい電気科ですが、まだまだ4年も高専生活があるので、より一層仲を深めていけると良いなと思います。



システム制御情報工学科

担任 沢谷 佑輔

1年システム制御情報工学科は、入学して間もなく行われた新入生合宿研修のスポーツ活動から圧倒的な団結力を見せ、行事の度にまとまりを強めることができました。この1年で学習に対してだけではなく、様々な場面でも自ら考えて行動できる学生が増えてきました。2年に進級しても周りに流されることなく、規範意識を持ち、社会に出た時に何が必要なかを意識しているいろいろなことを身につけてほしいと思います。



代表 渡邊 勇志

僕たち1Sは男子38人、女子4人のクラスです。担任はいつも爽やかな沢谷先生です。最初はみんな誰とも話さないで、お通夜があったかのように静かだったクラスも、入学してから半年以上経ち、学校生活に慣れてきて、暇さえあれば、スマホゲームを極める者が居たり、一発ギャグを突然披露したりする変人も居ます。休み時間は賑やかですが、授業中はとても集中していて休み時間と授業の切り替えがすぐできるクラスになったと思います。2月の学年末テストをみんなの力を合わせて乗り切って、これから入学してくる1年生のお手本になれるような先輩になりたいです。



第1学年の各クラスの雰囲気や様子について担任と代表の学生から一言ずついただきました!

物質化学工学科

担任 吉田 雅紀

入学当初から落ち着いていて、ほんわか~なクラスです。裏を返せば緊張感があまり感じられず、成績が悪くても「のほほん」としていて、担任としては少し心配していました。年が明け、学年末が迫ってからスイッチが入ったのか、学習の面でも雰囲気よくなったと感じています。それぞれ



の目標に向かって少しずつ進んでいってほしいです。

代表 近藤 眞生

私たちのクラスはメリハリのあるクラスです。休み時間や放課後などは常に何人かの笑い声が聞こえるほどにぎやかですが、授業は静かで集中している学生が多く、時に笑いも交えながら楽しく受けています。また、体育大会などの行事では、みんな仲間を応援しあい、活躍を褒め称えあうという素晴らしい絆を持ったクラスです。



平成27年度 第4学年見学旅行

機械システム工学科 4年：森 陽宙

10月28日（水）～30日（金）の見学旅行において、計7社の工場の見学や作業工程などを拝見させていただきましたが、どの企業もとても興味深く、四方に目を奪われてばかりでした。

特に興味深かったのは、山崎製パン(株)札幌工場と新日鐵住金(株)室蘭製鉄所でした。

山崎製パン(株)では、食品を扱う場を見学する為に帽子から靴まで指定の物に着替え、工場内に入る際に手指の消毒や衣服に付いた埃や毛髪の処理を徹底的に行いました。工場内では様々な機械を稼働させており、一見機械など関係ないだろうという現場での機械の需要の高さを実感しました。社員の皆様の丁寧な説明がとても分かりやすく、焼きたての食パンを食べさせていただいた時の極上の食感は今でも忘れることができません。

新日鐵住金(株)は、今回の見学旅行で訪問した企業の中でも断トツの敷地面積でした。多数の設備があり、敷地内には線路が敷かれ、溶けた鉄を運ぶための専用の電車が走っていました。

この度の見学旅行では、クラスメイトとの楽しい時間を過ごすこともできました。修学旅行がない分、この旅行で楽しもうという気持ちもあり、企業見学はもちろん、移動時間や宿泊場所でも有意義な時間を過ごすことができ、良い経験を得ることができました。



電気情報工学科 4年：谷村 恭兵

見学旅行を通して様々なことを学びました。各企業の方々はとても親切に接してくれました。就職活動を前にして不安な事が多かったのですが、わからないこと等、丁寧に説明をしてくれたため、就職活動に関する不安を取り除くことができ、とても充実した時間を過ごせました。

様々な企業の事業内容を理解することで、就職活動をする前にある程度どのような職種・仕事内容があるのか把握できたのは大きく、自分の予想していた事業内容と比較でき、自分に向いているかということを考えることができました。

今後の就職活動に役立てていきたいと思います。さらに、今回の旅行はこうした専門知識だけでなく、社会人としての振る舞いを学ぶ良い機会となるとともに、高専には修学旅行がないため、移動中のバス内やホテルで修学旅行のような気分を味わうことができたので、クラスの仲間との親睦を深めることができました。



本校では、第4学年の学生を対象に、道内企業等を訪問し、生産現場の施設・設備及びその生産過程を見学させていただく「見学旅行」を実施しています。各学科で異なる見学旅行の内容について参加学生に紹介してもらいました。



システム制御情報工学科 4年：中村 育人

4年生になり、本格的に進路について、就職について考えなくてはならない時期になったが、クラスの雰囲気や今までのような感覚に流されて自分自身で就職について考えられずにいた。来年の今頃には進路が決まっており、就職組は内定をもらっているような時期だ。今回の企業研修は、それを改めて認識させられ自覚を持つ良い機会となった。

実際に企業を訪問し、自分の目で業務や製品を見て触り、雰囲気を感じて、社員さんの話を聞く事はどんなセミナーやパンフレットを見る事よりも遥かに得るものがあり、大きな刺激をうけた。また、普段特別意識したり感じる事のできない緊張感や、マナーへの気配りを意識する機会があり、社会に出てからは当たり前になる事を学ぶことができた。

私は、この企業訪問を通じて、自分の興味が何に向かっているのかを判断する材料を得たいと思っていた。そうした意識を持って3日間で6社を訪問した結果、まだ完全にはないが、就きたい職業や働きたい企業のイメージがある程度まとまってきたように思う。

インターンシップや今回の企業訪問をしっかり振り返り、就職活動に励みたい。



物質化学工学科 4年：石川 浩也

私たち物質化学工学科39名は、小寺先生、松浦先生の引率のもと、王子コーンスターチ、北海道キッコーマン、新日鐵住金、北海道曹達、JX日鉱日工エネルギー、日本血液製剤機構の6社と北海道大学触媒化学研究センターを見学させていただきました。どこの企業でも、担当の方が丁寧に対応してくださり、今回の見学旅行を通して本当に多くの事を学ぶことができました。

見学させていただいた企業の中で特に印象に残ったのは新日鐵住金さんでした。鉄を加工する設備を初めとして、どれも我々が学校で生活しているだけではとても触れる事が出来ない大規模、大迫力の製造過程を見学する事が出来ました。

見学旅行の夜は登別の温泉街に宿泊し、地獄谷散策、温泉、友人との談笑など楽しい時間を過ごしました。

2泊3日という短い期間でしたが、今後の学生生活や進路選択に大変有意義な見学旅行となりました。

第53回 高専祭

10月24日(土)、25日(日)の両日、本校を会場に高専祭が開催されました。各学科による実験・実習パートやクラブ・同好会による展示、20店以上の飲食パート(模擬店)のほか、小中学生対象のスタンプラリーや、ビンゴ大会、コンテスト、バンドライブなどたくさんのイベントを催しました。実行委員をはじめ皆様お疲れ様でした。

学生会会長 物質化学工学科3年 佐々木 慈生

2015年度旭川高専祭に際しまして、多大なご支援とご協力を賜りました本校教職員の皆様、外部企業の皆様、地域の方々に厚くお礼申し上げます。ここからは私事かつ駄文となりますので読み飛ばしてもらっても構いません。今年度は学校の年間スケジュールが大幅に変更され、高専祭の準備期間の見直しを課されたり、例年より規制が一層強固なものになり厳しい判断を下さざるを得ない状況になったり、正直言って撤回日が終わるまで何かの罰ゲームかと思いました。当日が近づくとつれ、電磁気と実行委員長職の板挟みになった実行委員長をはじめとした学生会役員の目からは気が消え、当日は予期せぬ問題の処理等でほとんど寝られず生きた屍状態でした。つらかった。来年度は教員・学生間の連携、予算配分など今年度の反省を活かし、新しいことにも挑戦してより素晴らしい高専祭を作り上げるためのお手伝いが出来たらと思います。



高専祭実行委員長

電気情報工学科3年 岩島 圭吾

セメスター制の導入により、今年度から行われた準備期間の大幅な変更が今回の高専祭の一番の問題となりました。夏休みがずれること、定期試験が2週間にわたって実施されることにより学生会執行部自体の活動期間が例年よりも約1か月短くなりました。そのため、例年よりも早め早めの行動を心がけて当日に臨みました。

今年は旭川市水道局の方からの依頼により旭川市のシンボルキャラクターのあさっぴーにも来ていただきました。また、当日には雪が降ると自分が経験したことのないことも起こりました。

問題点はたくさんありましたが、来年の実行委員長も自分が務めるので経験を活かして今年度の高専祭よりも良いものにしていけたらと思っています。



留学生実地見学旅行 と留学生交流会

本校に在籍する留学生は毎年、チューター学生とともに参加する「留学生実地見学旅行」や道内4高専の留学生が一堂に会する「留学生交流会」に参加し、様々な体験学習を通して見聞を広めています。これらのイベントに参加した留学生から内容や感想について日本語で寄稿してもらいました。



物質化学工学科3年 ガリー(インドネシア留学生)

平成27年10月26～27日に留学生、チューターと先生方で帯広方面に見学に行きました。パナソニックデバイスの工場、帯広畜産大学、柳月スイートピアガーデン、ひがし大雪自然館の4か所を見学してきました。大体、天気も良く雪に覆われた大雪山の広くて、きれいな風景も楽しみました。帯広にあったパナソニックの工場は主にリレーを作っていました。車やスイッチなどのリレーでした。化学科の私にはあまり関係がなかったのですが、工場に入って、大きい機械を見るのは日常にないので面白かったです。帯畜大では、そこの学生が学んでいることを教えてくれたり、牛を触ったりしました。牛に舐められたのは忘れられないです。驚いたことに、ここで研究しているインドネシア人が3人もいました。夜に、ホテル大平原に泊まりました。そこで温泉に入るのは初めてでした。やっぱり、初めてだったので抵抗がありましたが、機会があればまた入りたいです。食後は、深夜までみんなとカードゲームをしました。2日間色々なところを見学して楽しかったです。いい経験になりました。



物質化学工学科3年 ファルハナ(マレーシア留学生)

今年の1月10日から11日に日高少年自然家において、道内4つの高専の留学生の「留学生交流会」が開催されました。このプログラムの主な目的は道内の4つの高専の留学生たちを集め、勉学・生活状況等について情報を交換したり、ウィンタースポーツ(スノーボードやスキーなど)を楽しんだりして北海道の自然や文化を知ることです。このプログラムを通じて、色々な新しいことを経験できました。例えば、マレーシア以外の留学生もいたことで、自分の国について話をして、お互いにある異なる意見と考えを交換しました。彼らから新しい言語を学ぶ機会もできました。その上、体験学習では、日本の伝統的工芸でもある「七宝焼き」によるキーホルダー作りが行われ、それぞれ自分の好きなデザインを考えて、真剣にキーホルダーを作成しました。4つの高専の初めての留学生たちに会う時、すごく喜びました。1年ぶりの先輩たちに会う機会も今までなかったから、このプログラムは本当に楽しみにしていました。苫小牧高専(企画校として)のみなさん、ワザワザこのプログラムを開催してくれて、大変ありがとうございました。来年の交流会を楽しみにしています。



女子学生の活躍を支援する取り組み

平成 27 年度の男女共同参画推進室の事業として、「旭川高専OGと女子学生とのトークセッション」及び「女子学生と校長との懇談会」を実施しました。

「旭川高専OGと女子学生とのトークセッション」は、12月18日（金）に就職や進学を控えた4年生の女子学生全員に対して行いました。ボランティア（所属企業のご好意により）で参集してくれた本校OG4名が、自分達の学生時代の悩みや経験、就職後の体験談等について、膝を交えて語ってくれました。OGを知る女子学生も多かったこと、OGのポケットマネーによるお菓子の差し入れ等もあり、トークセッションは終始和やかな雰囲気で行われました。4年生女子学生の来年度の進路決定の一助となればと思います。

「女子学生と校長との懇談会」は、男子学生中心の学校環境になりがちな本校に、女子学生目線で見えてくる問題点や疑問点等を指摘してもらい、性別に関係なく、より良い学び舎になるようなヒントを得るために企画したものです。さらに、普段直接会うことの少ない校長に、女子学生の生の声を届けることも目的の一つです。12月10日（木）に1年生8名、1月26日（火）に3年生6名、2月4日（木）に5年生10名・専攻科2年生3名と、それぞれ懇談を行いました。

1年生からは、入学前のイメージと入学後の実体験の差に戸惑いながらも、自分の将来に向けて考えながら前に進んでいく姿がうかがわれました。また、トイレ用「音姫」設置の要望があり、3月中旬にすべての女子トイレに設置する予定です。

3年生からは、学校生活や勉強に悩みや苦勞を感じながらも、自分の将来を考えて日々を過ごしている様子が感じられました。なお、意外な意見として「かわいい制服が着たかった」が挙げられます。今後、学生会等とも意見交換を行いながら、本校の対応を検討していくこととします。また、防犯カメラの設置について質問があり、校長から「予算化を検討している」との返答がありました。

5年生と専攻科2年生からは、女子が少ない中、5年制（7年制）や混合学級等の高専独特の環境を生かして、難しかった専門科目や部活動等に臨んだこと等を語ってくれました。また、卒業（専攻科修了）後の進路選択に際してのエピソードも聞くことができ、4月からの新生活を前に希望に満ちた様子が感じられました。なお、要望として路線バスの増便等があり、これも学生会と連携しつつ対応していくこととしています。

男女共同参画推進室長 津田 勝幸



来年度の「ニュージーランド・イースタン工科大学語学研修」および「旭川工業高等専門学校・水原ハイテク高等学校交流事業」について

本校では、教育の基本方針の一つとして「国際的に活躍できる人材の育成」を掲げ、様々な国際交流事業を進めています。その一つが、道内4高専とニュージーランド・ネーピア市のイースタン工科大学（EIT）との学術交流協定に基づく連携事業である「ニュージーランド・イースタン工科大学語学研修」です。今年度は夏期休業期間中に実施し、7名の学生が参加しました。来年度は、8月26（金）～9月11日（日）の日程で実施を予定しています。

また、低学年向けには「旭川工業高等専門学校・水原ハイテク高等学校交流事業」があります。これは、韓国・水原ハイテク高等学校と本校が学術交流協定を締結したことにより始まったもので、学生の相互派遣を行っています。今年度は、MERSの影響で残念ながら中止するに至りましたが、来年度は8月31日（水）～9月6日（火）に派遣プログラムの実施を予定しています。

これらの事業は、国際性を育む絶好の機会です。興味のある学生の皆さんは、是非積極的に参加してください。

「北海道地区高等専門学校英語スピーチコンテスト」で本校学生が優勝しました



11月8日（日）、釧路高専にて「第6回北海道地区高等専門学校英語スピーチコンテスト」が開催され、本校から出場した物質化学工学科4年の岡紗雪さんが優勝しました。7分間のスピーチの中で岡さんは、改正公職選挙法により来年から選挙権年齢が20歳から18歳に引き下げられることに触れ、若者そして高専生の政治に対する今後の考え方や行動について、英語で意見を述べました。

岡さんはさらに、2位入賞の函館高専の学生とともに北海道地区代表として、1月23日（土）～24日（日）に東京のオリンピックセンターで開催



された「第9回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト・スピーチ部門」に出場し、堂々とスピーチを披露しました。岡さんの益々の活躍を期待します。

「中学・高校理科研究発表会」で本校学生が奨励賞を受賞しました

11月14日（土）、北海道大学農学部において、道内4高専が主催する「第2回中学・高校理科研究発表会」が開催されました。本研究発表会は、中高校生及び高専生が、自由研究や調査研究活動等の成果を発表することに加えて、高専が行っている科学教育等を通して中学校・高等学校との連携を深めることを目的としております。

当日は道内各地から約80名の生徒・学生及び関係者が参加し、24組の発表者がポスターや机上展示物を用いて研究発表を行いました。実行委員会による審査の結果、9件のテーマが表彰され、本校からは高田 阜平さん（物質化学工学科2年）による「焦電センサー付き水栓」が『奨励賞』を受賞しました。



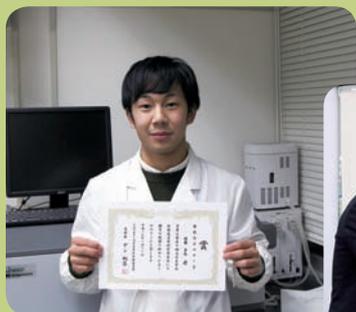
「化学系学協会北海道支部 2016 年冬季研究発表会」で 本校学生が優秀講演賞を受賞しました



千波さんが口頭発表部門で、同学科4年の杉浦みのりさんがポスター発表部門で、『優秀講演賞』をみごと受賞しました。

1月19日(火)～20日(水)、北海道大学フロンティア応用科学研究棟にて、日本化学会、日本分析学会などの北海道支部共催で「化学系学協会北海道支部 2016 年冬季研究発表会」が開催されました。本発表会には、北海道大学や室蘭工業大学など道内大学の学生、大学院生に加え、筑波大学、明治大学など本州の大学から参加する学生も多く、その数は 437 名にのぼりました。研究成果の発表は口頭発表形式で94件、ポスター発表で100件が行われました。発表者の多くは大学生、大学院生であったにも関わらず、その質の高いプレゼンテーションと的確な質疑応答が高く評価され、本校物質化学工学科4年の山田

高分子学会北海道支部研究発表会で本校学生が 最優秀ポスター賞を受賞しました



1月21日(木)、北海道大学フロンティア応用科学研究棟で開催された「第50回高分子学会北海道支部研究発表会」において、本校専攻科応用化学専攻1年の間藤 芳允さんが「フェニルアラニン由来アミド基を導入したポリ(フェニルアセチレン)によるキラル識別」の題目で研究発表を行い、『最優秀ポスター賞』を受賞しました。間藤さんの研究のさらなる発展と活躍を期待します。

札幌モーターショー 2016 「北海道ハンドメイドエコカー コンテスト」に出展しました



1月22日(金)から24日(日)、札幌ドームで開催された札幌モーターショー2016・北海道自動車産業ゾーンにおけるイベント「北海道ハンドメイドエコカーコンテスト」(道内の高校・大学等6校7チームが参加)に、本校機械システム工学科5年生の3名(上堀 和真さん、中澤 佑哉さん、森賀 深樹さん)が卒業研究で製作した“電気自動車”を出展しました。本校の車両はスポーツカータイプである上、スマートグラスに走行動画が映し出されて仮想運転を体験できるため、乗車希望の子供たちが列をなし、多くの子供達が試乗を楽しみました。

「AWBC 平成 27 年度合同成果発表会」で 本校学生が賞を受賞しました



1月31日(日)、フィール旭川5階のジュンク堂ギャラリーにおいて、旭川市内の6つの高等教育機関による大学連携組織「旭川ウェルビーイングコンソーシアム(AWBC)」の主催により、AWBC 合同成果発表会が開催されました。今年度は、旭川医科大学、北海道教育大学旭川校、旭川大学、東海大学および本校から合計13の個人・グループが参加し、1年間の活動成果を各校の教職員や学生約70名の前で順に発表しました。

発表後に審査が行われ、本校専攻科生産システム工学専攻1年の本間 渉人さんと北海道教育大学旭川校の学生に最高賞にあたる「AWBC 賞」が授与されました。

行事予定

平成28年度
4月～6月



4月	1日(金)	春期休業
	4日(月)	入学式
	5日(火)	始業式・対面式(本科)、1年オリエンテーション(本科・専攻科)、授業開始(専攻科)
	6日(水)	授業開始(本科)
	7日(木)	TOEIC説明会(本科4年)
	8日(金)	健康診断(本科・専攻科)
	14日(木)	第1回TOEIC IPテスト(本科・専攻科)
	14日(木)～15日(金)	新入生合宿研修(本科1年)
	21日(木)	学生総会(7時限目)(本科)、交通安全講習会(8時限目)(本科1～3年)
	23日(土)	開校記念日
	28日(木)	授業参観日(本科)
5月	2日(月)	休業(開校記念日振替)
	12日(木)	交通安全講習会(7時限目)(本科4～5年)、第2回TOEIC IPテスト(本科・専攻科)
	19日(木)～20日(金)	校内体育大会(本科)
	26日(木)	インターネットトラブル防止講演会(7時限目)(本科1・3年)
	30日(月)～6月10日(金)	前期中間試験期間(授業内実施)(本科)
6月	15日(水)～21日(火)	水原ハイテク高校交流事業(受入プログラム)
	23日(木)	進路に関する講演会(7～8時限目)(本科4年・専攻科1年)
	23日(木)～24日(金)	宿泊研修(本科2年)
	30日(木)	薬物乱用防止講習会(7時限目)(本科4～5年)

FANCT vol.124

「FANCT」…旭川高専を表す「ANCT」に「F」をつけて「Fun」(楽しい、愉快的)の首を付けました。旭川高専の楽しい情報を伝えること、また、読むのが楽しいな学校だよりになるよう名付けました。



独立行政法人国立高等専門学校機構

旭川工業高等専門学校

〒071-8142 北海道旭川市春光台2条2丁目1番6号

TEL 0166-55-8000 (代表)

FAX 0166-55-8082

<http://www.asahikawa-nct.ac.jp>

学校だよりに掲載されている記事・写真などは、学校だよりへの掲載目的以外の利用及び外部への提供は一切行いません。また、個人情報に関するお問い合わせは、上記担当までご連絡ください。掲載の記事・写真・イラストなどのコピー・転写等の二次利用は固くお断りしております。

編集後記

今年度最後の学校だより「FANCT」124号をお届けします。発行にあたって、ご協力いただいた教職員および学生の皆様に、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。さて、今号では、特集として「卒業・修了」および「進路支援」を取り上げました。卒業生、修了生の皆さんに心からお祝い申し上げるとともに、新天地での更なる飛躍とご活躍をお祈り致します。また、4年生以下の学生の皆さんにとっても、卒業は遠い未来の話ではありません。来るべき卒業とその後の将来に向けて、日々精一杯努力していただきたいと思います。

記載：堺井 亮介 (学校広報 WG)